

日本早期認知症学会 年頭のご挨拶  
理事長 志村孚城

あけましておめでとうございます。

日本早期認知症学会は、今年も早期認知症に係わる研究開発・ケアの実践指導に注力し、明るい高齢化社会の実現に貢献すべく頑張っています。認知症の症候は多種多様であるため、学会活動を通して是非皆様との情報共有を推進させ、問題解決を図っていく事が重要であると考えます。また、最近では、アルツハイマー病の MCI(Mild Cognitive Impairment)のように認知症予備軍のスクリーニングや予防方法などにも研究の範囲が広がり、私どもの役割の重要性はますます高まっています。

認知症の最近の研究成果について概観すると、分子イメージング技術の進歩が著しく、アルツハイマー病の病因とされている AD $\beta$  のイメージングが PET で可能になったことがトピックです。従来剖検の染色でのみイメージングされてきた AD $\beta$  が、生前に 3 次元的イメージングが可能になったことです。PET ではポジトロンを放射する RI を用いるため放射線障害があり誰にでも適用できるわけではありませんが、アルツハイマー病の AD $\beta$  仮説の検証のみでなく他の認知症との鑑別にも適用できるかも知れず、注目して頂きたいと思います。

2011 年の日本早期認知症学会は、1 月 29-30 日に第 12 回大会を辻正純先生が東京練馬で開催します。プログラムは従来の大会を大きく拡張した内容になっています。是非、多数の御参加を頂き、活発な討議がなされることを期待しています。

さて、私が理事長を拝命してからあつと言う間に 1 年が過ぎました。外部監事の任命、学会事務局の移管、寄附行為など掲げた改革は確実に前進させていますがまだまだ不十分であると考えています。残り 9 ヶ月の任期を一生懸命努めますので、理事始め会員各位のご協力をお願いいたします。

最後に皆様のご健勝を祈念して、年頭の御挨拶とします。